



地域日本語支援ニュース こだま 第 414 号

2021.12.9



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部: <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

==== 目次 =====

1 ■ともに生きる：茨城県坂東市から ■

コロナ禍を逆手に！

留学生と地域住民が「やさしい日本語」で楽しくオンライン相互交流

内田ちひろ

2 ■進学進路ガイダンス情報（2021 年） ■

=====

1 ■ともに生きる：茨城県坂東（ばんどう）市から ■

茨城県では昨年度の 1 月～2 月に「新しい茨城 下妻・坂東のための日本語支援を考える会」(5 回シリーズ) が実施されました。この講座の受講者が中心となり、坂東市に「にほんごサークルあい」が誕生しました。この夏から秋の 3 回にわたりオンラインで行われた「留学生と地域住民とのオンライン交流会」について代表の内田ちひろさんが紹介していただきます。

.....

コロナ禍を逆手に！

留学生と地域住民が「やさしい日本語」で楽しくオンライン相互交流

日本語教師

「にほんごサークルあい」代表

「茨城県地域日本語教育の体制づくり推進事業」

地域日本語教育コーディネーター

内田 ちひろ

私たち「にほんごサークルあい」は、2021年4月に誕生したできたてホヤホヤのにほんごサークルです。地域住民と外国人が気軽に集い、日本語のおしゃべりを通じてより楽しく交流できる居場所を目指しています。現在は月1回、対面で日本語支援活動を行っています。対面交流が制限されているコロナ禍で、今回その特別編として行った「茨城の留学生と地域住民のオンライン交流会」についてご紹介します。

コロナで大学の授業もオンライン、地域の日本語教室も休止。そんな中、地域日本語教育コーディネーターとして関わりがあった（公財）茨城県国際交流協会（注1）から、「県内留学生支援として、留学生が地域住民とオンラインで交流をする企画（注2）をやりませんか？」と声がかかりました。

「せっかく日本に留学しているのに日本人と話す機会が減って、残念な思いをしている留学生もいるだろうな。留学生と地域の日本人との交流の機会を作ったらどうかな。」と思いました。サークルを立ち上げたものの、コロナで思うように活動ができない私たちにとってもいい機会だと、引き受けることにしました。

◆「茨城の留学生と地域住民のオンライン交流会」

交流やイベントもなく気持ちも沈みがちに…、ならば「やさしい日本語で、楽しく話す」ことを一番の目的に、「気軽に気楽に参加できる交流会」にしよう、話が弾むようテーマを決めるも、脱線も大歓迎！楽しく盛り上がったら大成功！！ということにして、国が違っても、何気ない話、雑談？ができる喜びを感じてもらうことを大切に考えました。

今回は3回シリーズを企画し、毎回留学生が5～6名、日本人は12～14名（県国際交流協会関係者2名を含む）が参加してくれました。

・第1回（8/27 10:00-11:00 実施）「話そう！茨城のいいところ」
長く茨城に住んでいる方、または住んではいるけれど他県に通勤していたので

茨城についてあまり知らないという方まで地域住民もいろいろ。留学生からは「梨狩りや桃狩りをやってみたい」、日本人からは「茨城の名産、地域のおいしい店の話、地域の祭りや素敵な公園の紹介」など、国籍に関係なく情報交換ができました。「お互いがまだ行ったことがない良いところがいっぱいあるね、ぜひ行ってみたいね」と盛り上がりました。

・第2回（9/26 10:00-11:00 実施）「聞いてみよう！留学生のふるさとってどんなところ？話してみよう！住んでいる街について」

留学生が写真を共有して故郷を紹介し、若者の立場からベトナム戦争の爪痕や現在の街の様子を話してくれました。その風景は心に深く残りました。本やガイドブックでは知ることができない地方の小さな町について知ることもできました。いろいろな国のローカルな話を聞き「いつか行ってみたい」、「まるで旅行に行ったかのような気分。とっても楽しかった。」という感想も出て、皆大変共感しました。

・第3回（10/31 10:00-11:00 実施）「留学生に教わろう！お国のことば」

留学生の「自分たちの国の言葉を知ってもらいたい」という熱意と情熱が画面越しに伝わりました。日本人の皆さんが、中国語、キルギス語、アラビア語、ベトナム語の扉をたたき、いつもと逆の立場で一生懸命発音を練習。最後は全体で簡単な挨拶や自己紹介を披露。留学生が「天才です！」と褒めてくれ、拍手でお開きとなりました。

◆アンケートの感想から

——留学生の感想をご紹介します。

とても楽しめました。時間が短く感じました。いろいろお話してくれてありがとうございます。県内の自分が住んでいる地域ではない他の地域の話聞き、行ってみたいとなりました。

——日本人参加者の感想もをご紹介します。

今回の交流会でお会いした方々の全ての国に親しみを覚えました。それまで偏見を持っていたと思います。外国の方とお話するのがとても大切だと分かりました。

毎回おしゃべりが楽しくて時間が足りないくらいでした。国が違って、打ち解け合えるってすばらしいですね。

◆終わってみて…

思えば、せっかく同じ県内のそう遠くないところに住んでいるのに、留学生と他の地域の住民が会って話す機会はなかなかないことでした。地域の日本人はリタイアされた方が多く年の差もあり、留学生が楽しんでもくれるのかと心配していた方もいましたが杞憂でした。私は、同世代でなく先生でもない日本人と話すことが留学生にとって必ずいい経験になると確信しています。相乗効果で楽しいだけでない「学び合い」も生まれました。留学生にとっても地域の皆さんにとっても心あたまる思い出の1ページになるといいなと思います。

コロナでもできた、コロナだからこそできた交流会のお話でした。そしてこの会は、会話しながら気づき学びあい起きるという日本語教室の原点になるような時間でした。

注1 (公財)茨城県国際交流協会ホームページ

<http://www.ia-ibaraki.or.jp/kokusai/index.html>

注2 『(公財)中島記念国際交流財団助成』(独)日本学生支援機構留学生地域交流事業
